

14 文化を大切にしている。オーストラリアの場合¹、髪の色に
 15 合わせて²ヘアリボンを選ぶことができる。イギリスでは生
 16 徒の宗 教 が尊重³される。ところが⁴、日本ではどうだろ
 17 うか。髪の色が明るい生徒がいても、教師は黒や紺のリボ
 18 ンをするように注意⁵するだろう。また、宗 教 上でも、ピア
 19 スはしないように指導⁶するだろう。つまり⁷、例に挙げた国
 20 の校則には多民族⁸・多文化への思いやり⁹があるのに対し
 21 て、日本の校則にはみんな同じである¹⁰ ことがいいという
 22 考え方がある。

23 最近、「国際化¹¹」「グローバル化」ということばをよく
 24 耳にするようになった。日本の学校にもさまざまな文化を
 25 持った生徒が増えてきた。そのため、国際化に合った校則
 26 のある学校もあるだろう。しかし、多くの学校の校則はま
 27 だ昔のまま¹²であるように感じる。この機会に日本の校則
 28 も変えるべき¹³だと思う。全部を変えるのではない。いい
 29 ところは残して、いろいろな文化を考えたものに変えたら
 30 どうだろうか。海外の校則を見てそう思った。

31 高校教師 男性（41歳）

Zie volgende bladzijde voor vragen bij de tekst.

¹'geval'

²'in overeenstemming met ...' (vgl. 合わせる 'combineren, bijvoegen')

³'respect'

⁴'echter'

⁵hier: 'zodat ...'

⁶'leiding'

⁷'kortom'

⁸'volk, etniciteit'

⁹Vgl. 思いやる 'rekening houden, bedachtzaam zijn'

¹⁰schrijftaalkvorm van だ

¹¹Suffix dat een ontwikkeling of verandering aangeeft. Vergelijkbaar met -
 isering in het Nederlands.

¹²geeft een aanhoudende toestand aan

¹³'behoren te, moeten'